

# 五大都市選挙における藍緑陣営の勢力移動

徐永明

一般の五大都市選挙の結果、国民党は3都市を保持したものの、民進党は得票総数で国民党を40万票上回り、得票率では過半数を超えた。得票率を見ると、民進党は国民党に5%の差をつけ、昨年末に実施された総選挙を合わせても、民進党は国民党に対し、わずかに2%負けているにすぎない。一議席を争う地方自治体の首長選挙では、民進党は常に得票数で国民党を上回っていることになる。

この結果は野党である民進党にとってはかなりの成功といえるだろう。また、2年後の総統選挙における政治勢力の構造を表すものともいえる。しかしながら、投票日直前の連勝文銃撃事件の影響により、民進党は現状維持の議席数を増加させることができず、5大都市中、2議席を得たままに終わった。3議席を守った国民党にとっては勝利と言えそうだが、重要な構造変化が起こっていることを見逃してはならない。以下に、グリーン陣営とブルー陣営の勢力盛衰の角度から考察してみたい。

## 2004年へ逆戻り

五大都市選挙は、全国的な立法委員選挙や総統選挙ではないが、一議席を争う首長選挙であった。また、高雄以外の都市ではすべて「グリーン陣営対ブルー陣営」の一騎打ちであった。そのため、この構図によってグリーン陣営とブルー陣営の勢力変遷を窺い知ることが出来た。結果から言えば、民進党は得票面において高雄と台南で大勝した。

台中では接戦を演じ、北部2都市では小差の敗北であったといえる。これらの結果を見ると、2004年に再選を目指した陳水扁氏の選挙戦の構図を思い出す人も多いだろう。あの時の民進党の戦略は、カギは台湾中部にあるとして、南部で大勝した得票で台北の敗北を補い、中部で競ることが出来れば、勝利の光が見えてくるというものであった。

今回の五大都市選挙の得票分布に当てはめてみると、こうした構図はかなり似通っており、特に台中市と台中県が合併した大台中市の得票結果を見ると、2004年の総統選挙で戦った陳水扁氏の構図とピタリ一致している。台中県で稼いだ票によって台中市の負けを補い、台中縣市全体の結果としては五分五分に持ちこんでいたのだ。台中で五分五分の結果が得られたことで、陳水扁氏が国民党の連宋コンビに僅差で勝利することが予想できたのもそのためである。

政権交代後、グリーン陣営とブルー陣営の競争は、明らかに2004年の構図に回帰している。政治的構図の仕組みは多少変化していたものの、連勝文銃撃事件による一発の銃弾で、元の構造に戻ったとあってよい。ここには多くの意味(implications)が含まれている。まず、下野して2年の民進党は、前回の総統選挙や立法委員で大敗を喫し、その支持基盤は40%に後退した。しかしながら、今回の選挙から見られるのは、民進党は政権与党の座にいた頃の、最強の状態に回復してきているということである。民進党結成以来、さらに

2004年の陳水扁氏再選を経て、2度目となる最盛期を迎えていることになる。

また、台中市での選挙戦略は、民進党の選挙戦略の縮図ともいえる。蘇嘉全氏と胡志強氏の対決を例にとれば、胡志強・現職市長の任期は9年に及び、政治的魅力については馬英九氏にも程遠かった。また、台中市内で発生した銃撃事件の責任もとらずに市長の座に固執していた。来たる2012年、国民党陣営は南部で苦戦するのみならず、台中でも危うい戦いを強いられるかもしれない。蘇嘉全氏が今後も努力し続けられれば、台中市のグリーン化には期待出来るものがあるだろう。

## 南部のグリーンはより強く、北部のブルーは低調

北はブルー、南はグリーンという結果に終わったものの、台北市以外の敗北した都市では、民進党はすべて5%以内の差で敗北しており、勝利した2都市では10%以上の差をつけている。南部はグリーン化の傾向がより強くなったことがうかがえるが、かといって北部はブルーが強いということにはならない。むしろ、政治版図の変化は南から北へと向かっているともいえる。現在、その変化は台中であわや逆転勝ちというところまで届いており、こうした趨勢には下記のような解釈が出来るだろう。

まず、今回の選挙は民進党の蔡主席路線が北部の2都市で評価されなかったことを意味するわけではない。蔡英文路線が受け入れられるには時間的な遅延効果(lagged effects)が必要であり、その結果としてグリーン陣営とブルー陣営の差は縮まったものの、本来期待されていた逆転にまで

は繋がらなかったということだ。そのため、いかにしてこの効果を2012年に発揮させるが、最大の焦点となる。ブルー陣営が北部2都市を保持したというプレッシャーに負けることなく、いかに蔡英文路線を拡散させていくことが、現在の民進党に課せられた最も重要な任務である。

次に台中を見てみよう。これまで胡志強氏は、国民党内部では馬英九氏より魅力のエースと目されていた。しかしながら選挙戦では蘇嘉全候補に先行され、開票して見ればそれまでの高い支持率とは比べものにならない僅差でかろうじて勝つにすぎなかった。これは民進党が現在採っている路線と政治的リーダーシップがまだうまく相互作用していないための敗北ともいえるが、民進党が今後も台中で勢力を維持していくのであれば、台中は遅かれ早かれグリーン化していくことになるであろう。そうなれば、馬英九氏が2012年の総統選挙に出馬した場合、台中市で勝算を見込むことは厳しいものとなるであろう。B